

西宮市立中央病院の 跡地にかかる地域懇談会

(第3回資料)

令和2年10月29日

西宮市立中央病院

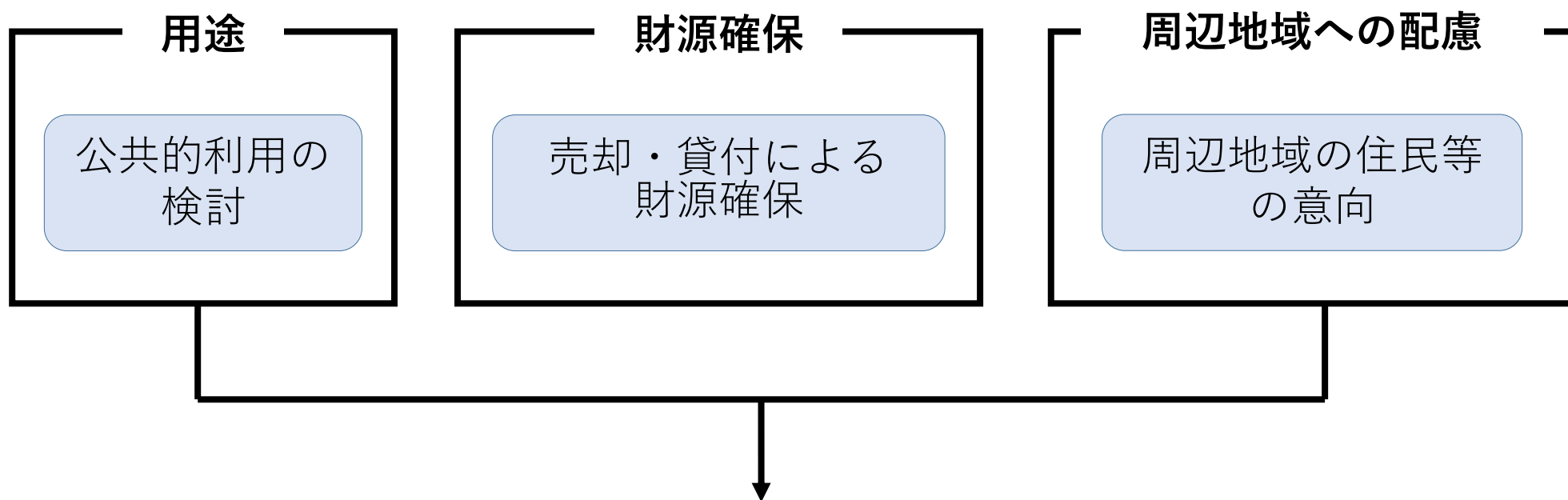
目次

- 中央病院跡地活用検討のこれまでの経過(おさらい)-----1
- 民間医療機関へのアンケート・ヒアリングの結果-----5
- 残地の活用について-----7
- 資産の有効活用の観点から見る貸付について-----8
- 今後のスケジュール-----9
- 跡地に求められる医療機能の検討-----10
- 統合新病院について-----12

中央病院跡地活用検討のこれまでの経過（おさらい）

資産の有効活用を考える上での3つの視点

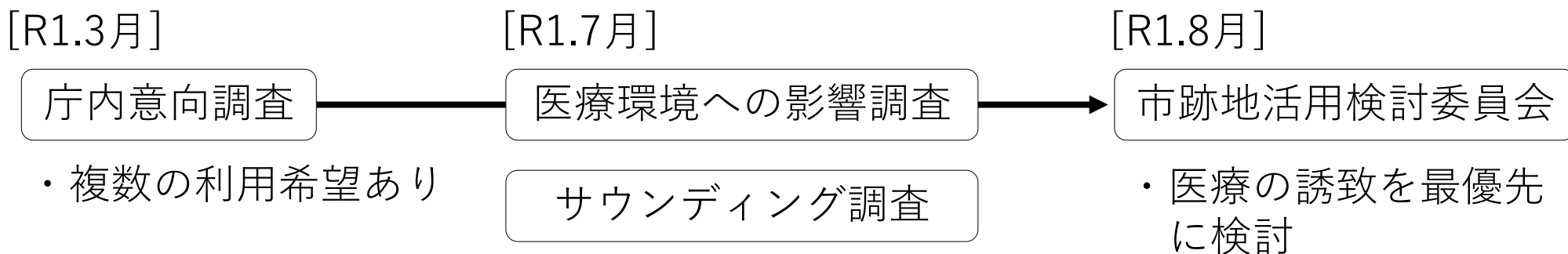
参照：西宮市未利用地の利活用に関する方針より抜粋



跡地活用方針の検討に際し、中央病院の閉院に伴い地域の医療環境に及ぼす

影響等について意見交換するため、本懇談会を設置

中央病院跡地活用検討のこれまでの経過（おさらい）



(参考) サウンディング調査結果

サウンディング調査とは…

活用検討の早い段階で、活用方法等について、民間事業者から意見や提案を募る「対話」を通して、市場性の有無等を把握する調査のこと。

◆参加した13事業者からの提案内容（複数提案あり）

種別（提案者数）	内容
住居系（4者）	分譲マンション等
医療系（8者）	病院、クリニック等
商業系（6者）	ドラッグストア、スーパー等
福祉系（9者）	高齢者向け施設等

[R1.9月、10月]

地域懇談会（2回開催）

■病院・医療機関の誘致を望む意見

- ・中津浜線の東側や段上には、病院がなく、統合病院へのアクセスも悪い
- ・地域の方の意見を聴いたところ、この中央病院がなくなると困る人が多い
- ・統合移転によりタクシー代などの経済的な負担が増える

■病院・医療機関の内容についての希望

- ・開業医では対応できないような医療（入院や検査）ができる施設が望ましい
- ・回復期の患者が入院できる病院があればいい
- ・高齢化に伴い増加する認知症患者も受け入れてくれる病院であればよい
- ・一次救急については、あった方がよい

■その他の意見

- ・市内に大きな公園がないので、全面芝生の公園が欲しい
- ・跡地の活用方法として公的な利用は考えているのか。
市の財政が逼迫しているので売却して収益を得るという考えもあり得ると思う
- ・取り壊しを前提とせず、既存建物の活用を図るべきである

[R1.11月案公表、R2.2月確定]

統合再編基本計画

- ・ 中央病院の閉院により地域の医療環境には一定の影響があること
- ・ 誘致にあたっては、土地の価値を損なわないことが前提

《中央病院跡地活用に関する方針》

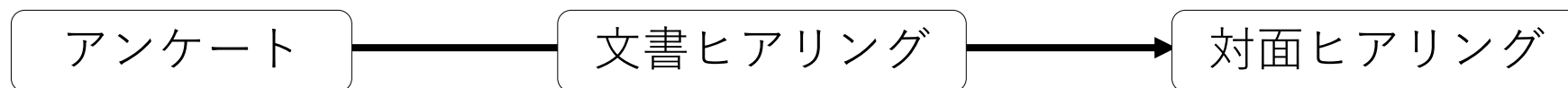
「**資産の有効活用を前提**として、**民間医療機関の誘致を中心に検討**する」



誘致の実現可能性を把握するため、

R2.2月～9月 民間医療機関へのアンケート調査等を実施

[R2.2月～9月]



《アンケート・ヒアリングの概要》

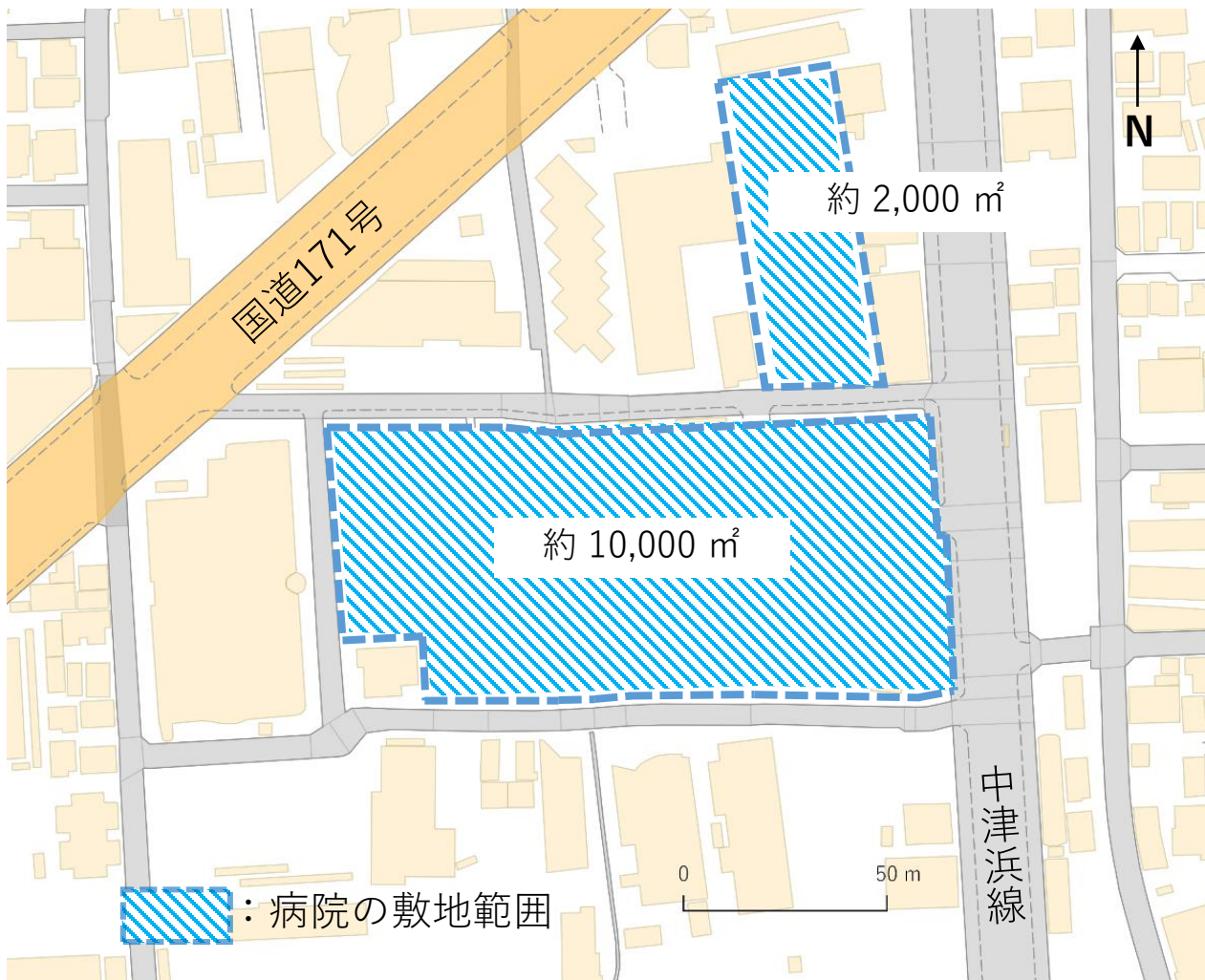
- ・市から委託を受けたコンサルが中心となって実施
- ・阪神圏域の入院施設を有する病院（63病院）に「関心の有無」を確認
- ・関心ありの医療機関（約10病院）に追加で文書ヒアリングを実施
- ・最終的に数団体に対面ヒアリングを実施（コロナの影響もあり辞退も）

 市内外で**複数の医療機関が跡地に関心を持っている**ことを把握

《アンケート・ヒアリング結果（医療機能等に関すること）》

項目	回答
(1)想定している活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現病院の移転先 ・ 新規開院 等
(2)入院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院機能はいずれも可能 ・ 医療機能は、急性期、回復期、慢性期と幅あり
(3)外来	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来機能は、複数科で実施可能から最低限（内科、外科程度）まで幅あり
(4)施設規模(病床数)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病床数は100床～300床と幅あり
(5)既存建物の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が建物解体、更地にして引き渡し希望が多数（建物を改修して活用するとの意見は少数）
(6)契約形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の賃借を希望が多数（土地の購入を希望する意見は少数）
(7)貸付料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在検討中

残地が生じる場合、残地の活用方法の検討が必要



《残地の検討パターン》

民間活用

or

公的利用

市全体で検討必要

《参考事例》

◆旧守口市役所跡地活用（R1年度）

- ・旧守口市役所の跡地活用（約7,500m²）では、「みどりを感じる憩いの空間と新たな賑わい・交流づくり」をテーマに民間提案を募集
- ・エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社を代表法人とするグループが選定
- ・提案内容は、スーパー、飲食店舗、薬局、賃貸住宅等
- ・旧守口市役所は、地下鉄守口駅の真上、国道1号線沿いと中央病院敷地よりも利便性が高い

◆八尾市・大阪府市(府)営住宅余剰地活用（H29年度）

- ・八尾市と大阪府が共同で一般競争入札によりコンビニを誘致
- ・ファミリーマートが応札
- ・貸付面積1,018.20m²
- ・近鉄八尾駅北側の場所で比較的交通量や商圈人口の多い場所

[R2.11月]

第2回サウンディング調査

- ・市として民間医療機関の意向を確認
- ・民間医療機関誘致について、より有効かつ実現可能性のある公募条件の検討
- ・残地の活用方法を把握



これらの情報を基に**有効な資産活用を前提とした医療機関誘致の可否**を判断し、方針案を策定(医療機能の要件・残地の活用方法等)



地域・市議会への報告

跡地活用方針の策定

募集要項の策定、公募

統合新病院へ継承されない医療機能

- ・ 回復期及び慢性期機能
 ⇐ 回復期病床の不足は阪神圏域の課題
- ・ 1次救急への対応
 ⇐ 1次救急の安定的な運用が課題
- ・ かかりつけ医機能
 ⇐ 約60%が周辺地域の住民

地域懇談会での意見

- ・ 統合新病院へのアクセスが悪い
- ・ 近隣で入院できる医療機関がない
- ・ 中津浜線の北東エリアでは診療所数が比較的少ない
- ・ 開業医では対応できない機能(検査や入院対応)を持つ病院が望ましい
- ・ 認知症患者への対応充実が必要

求められる医療機能等	ポイント	優先度
一定の病床数を持ち入院に対応できる病院機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な医療提供が必要 ・ 近隣での入院を望む声に応える 	高
内科系の一般的な診療科を含む外来診療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央病院のかかりつけ医機能を継承 	高
回復期・慢性期機能への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回復期病床不足という圏域の課題に対応 ・ 同機能に対応する病院は市南部に多い 	中
認知症対応機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後増加する認知症患者への対応 	中
1次救急への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央病院の1次救急の役割を継承 	中

◆病床機能の種類と内容について

名称	内容
高度急性期機能	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能
急性期機能	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能
慢性期機能	長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能

◆救急体制の分類と担当する医療機関について

第1次救急医療（自身で来院）

対象：外来で対応できる比較的軽症の患者

- ・西宮市応急診療所
- ・在宅当番医制
- ・阪神北広域こども急病センター
- ・尼崎健康医療財団 休日夜間急病診療所
- ・西宮歯科総合福祉センター

第2次救急医療（救急車での搬送等）

対象：入院や手術が必要な重症患者

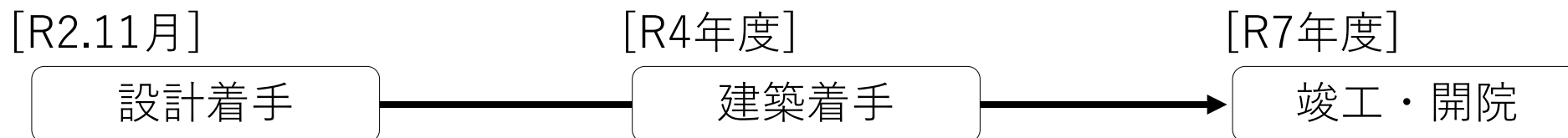
- ・病院群輪番制による当番病院

第3次救急医療（救急車での搬送等）

対象：命にかかわる重篤な患者

- ・県立西宮病院
- ・兵庫医科大学病院

①整備スケジュール



②感染症対応

令和2年2月の基本計画策定後、国内外で感染拡大した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応を踏まえ、圏域内の医療機関との連携や専用動線の確保、専用診察室・病室等を整備などの対応を県市で進めていく

③救急ワークステーションの設置

市が新病院敷地内に救急ワークステーションを設置し、新病院と連携していくことで県市で合意

※救急ワークステーション
次頁に詳細を掲載

救急ワークステーションとは

医療機関敷地内の専用スペースに救急隊を24時間365日待機させ、通常の救急業務を行いながら、医療機関と連携し、ドクターカーの運用や病院内で救急隊が救急専門医から直接指導を受けるなどの実習を行うことで、病院前救急救護体制の強化及び救急隊員の知識と技術の向上を図り、傷病者の救命率向上を目指す「救命」の拠点施設

《他市の事例》

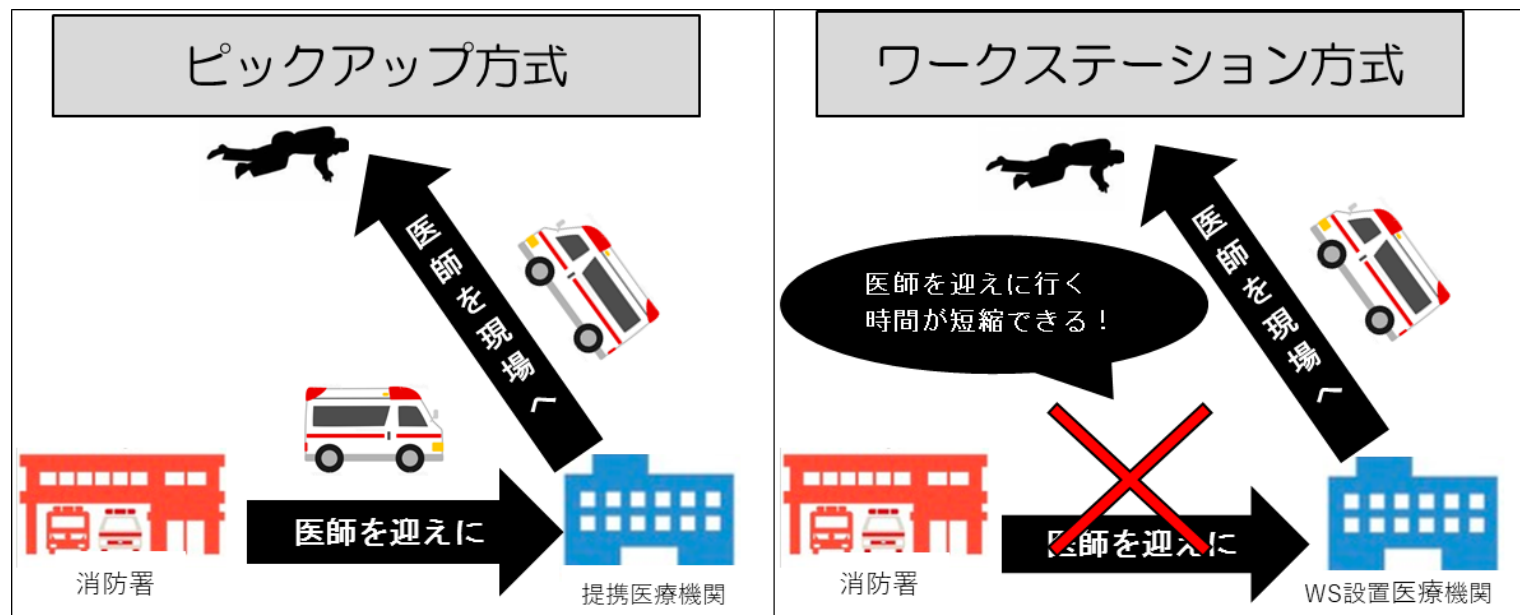


①迅速なドクターカー運用が可能

現在の西宮市ドクターカー方式
(ピックアップ方式)との違い



ワークステーション方式とすることで、
医師の現場到着時間が短縮されます。



②救急救命士の知識・技術の向上

救急救命士が救急現場で実施できる救急救命処置の範囲は拡大しています。
救急救命士が、救急ワークステーションで日常的に病院実習を受けることにより、
救命に必要な専門的知識・技術の向上が図れます。